

ソルガムのほ場周辺栽植による露地ナスのアザミウマ類及びカンザワハダニ抑制効果

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

露地ナスのほ場周辺にソルガムを栽植することで、ナスにおける害虫の発生の特徴を調査したところ、アザミウマ類とカンザワハダニの発生が少なくなる傾向が認められた。両害虫はナスにおいては重要な防除対象害虫であるが、ソルガム栽植により両者を対象とした薬剤防除を減じることが可能となり、農薬節減栽培に寄与することができるため参考資料とする。

2 参考資料

- 1) ソルガムを露地ナスのほ場周辺を取り囲むように栽植すると（写真参照）、ナスにおけるアザミウマ類及びカンザワハダニの発生が栽培初期から少なくなる（図1, 2）。
- 2) アザミウマ類及びカンザワハダニの発生が少なくなるため、殺虫剤の散布を減じることができる（図3）。
- 3) ソルガムの栽植によりハナカメムシ類の発生がより多くなるが（図1）、このことはソルガムの障壁効果とともに、害虫の発生を少なくする一要因と考えられる。



3 利活用の留意点

- 1) 今回試験で供試したソルガムの品種は耐寒性品種「スタックス306」で、ナスほ場の周辺に畦幅80cm、株間20cm、条間60cmで2条播きとした。播種量は畦10m当たり約8gである。なお、今回の実証は1.5aと8a規模のほ場で実施したが、これ以上の規模での効果については不明である。
- 2) ソルガムの播種は降霜の心配がなくなる5月中旬頃とし、施肥やマルチはせず、管理機をほ場内に持ち込む通路を確保しておく。

（問い合わせ先：農業・園芸総合研究所園芸環境部 電話022-383-8125）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

みやぎの環境にやさしい農産物栽培技術体系の確立 - 野菜編 - (期) (平成18~19年度)

2) 参考データ

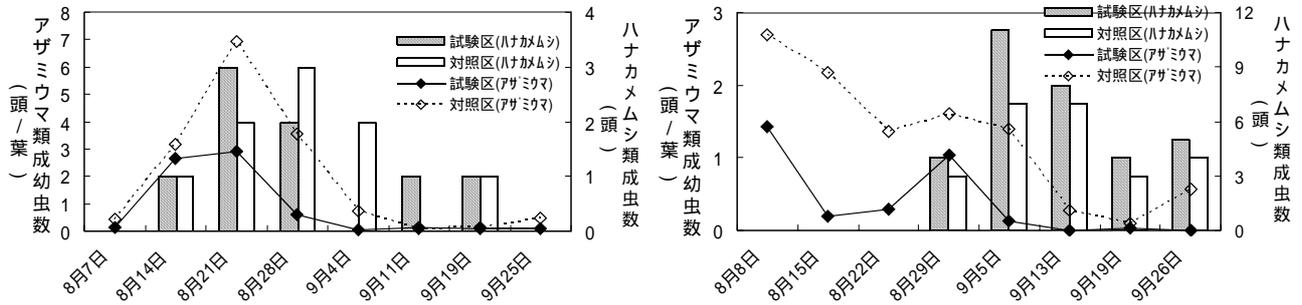


図1 露地ナスにおけるアザミウマ類とハナカメムシ類の発生推移(左図:平成18年, 右図:平成19年)
 ハナカメムシ類虫数は粘着板2枚(黄, 青色各1枚)の誘殺虫数を示す。

試験場所: 農園研内露地ほ場(試験区のは場周辺にツルカムを栽植)

試験規模: 平成18年は各区1.2a(ナス4畦), 平成19年は各区1.5a(ナス5畦)

ナス品種: 式部 ナス定植: 5月26日(平成18年), 5月14日(平成19年)

ツルカム品種: スタックス306 ツルカム播種: 5月30日(平成18年), 5月15日(平成19年)

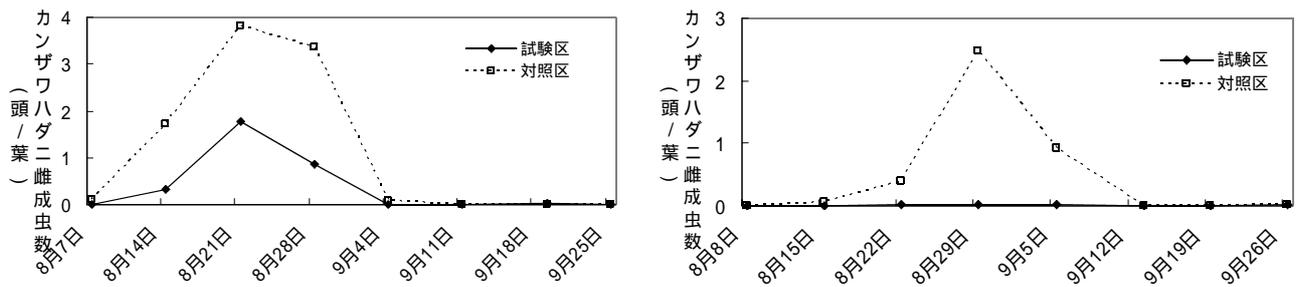


図2 露地ナスにおけるカンザワハダニの発生推移(左図:平成18年, 右図:平成19年)
 試験場所, 規模, 品種等は図1と同じ。

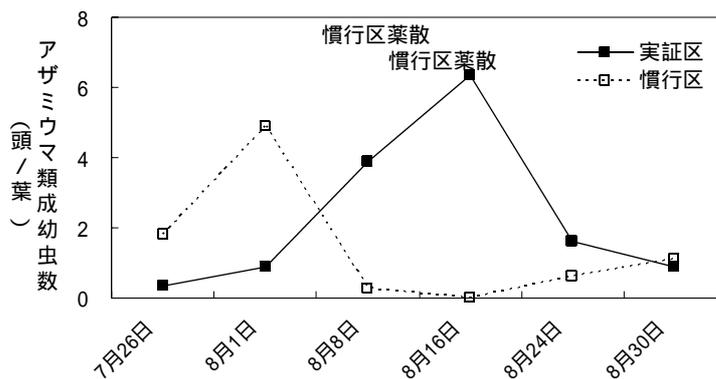


図3 露地ナスにおけるアザミウマ類の発生推移(平成19年)

試験場所: 登米市露地ほ場 試験規模: 8a

ナス品種: くるべえ ナス定植: 4月下旬

ツルカム品種: スタックス306 ツルカム播種: 5月14日

3) 発表論文等 なし